藤原弘達（ふじわらひろたつ）　政治評論家。大正十年七月二十一日鹿島郡生れ、平成十一年二月二日没（一九二一―九九）。昭和十九年東京帝国大学法学部を仮卒業で学徒出陣。復員後大学院に再入学、のち明治大学教授。四十四年著書『創価学会を斬る』が創価学会・公明党の反撃を受け、言論・出版問題に発展、政教分離の一翼を担った。

著書『近代日本政治思想史序説』（昭和二十七年四月十日三和書房）、『近代日本劇画史』（合著・小田切秀雄、滝田光雄編、昭和二十年十二月一日青木書店「青木新書」）、『保守独裁論』（昭和二十二年九月二十日中央公論社）、『日本の椅子』（昭和二十七年十月二十日文藝春秋新社）、『吉田茂―その人その政治・怪奇なワンマン』のすべて』（昭和二十九年六月二十日読売新聞社）、『犬猿の仲―政党における離合集散の論理』（昭和四十年十一月二十五日光文社「カッパ・ブックス」）、『新・創価学会を斬る―傷つけられた大衆の怒声』（昭和四十七年六月二十五日日新報道）等。